

⑤ 2024 年問題への取組みについて

	北海道西濃	関東西濃	東海西濃	濃飛西濃	三重西濃	日/丸西濃	四国西濃	九州西濃
新たに 取組みした内容 (テーマ)	・時間外を管理する為、日々「時間外実績表」を印刷、掲示して目視することにより、管理者はもとより本人の時間外意識付けを行う	・運行便 16h 超の改善について	・路線拘束時間の短縮 ・金曜日を積置きとして、土曜日の空車戻りを削減する ・金曜日出発便は復路店で連泊取得により拘束時間を短縮する	・医薬品輸送の運行改善 ・集荷方法の見直し ・配達時間の変更 ・賃金改定	・路線乗務社員・貸切乗務社員の時間管理 ・クラウド型のデジタコを導入し、拘束時間や休憩時間の取り方等、指導を行う	・人員確保の観点から、試験的に2車1名運行を鳥取支店と北大阪支店間での運用を立案・計画(北大阪支店で荷役分離)	・関東便 10 便のうち 4 便をライナー便に変更する計画。開始時期は、2023 年 9 月 2 便と 2024 年 4 月 2 便	【テーマ】2022 年度 ・路線実時間・時間外 100 時間超過者ゼロ 【取り組み】 ・店内での交番の見直し・コースの偏りや休出を減(前年 2 月実績で 100 時間超が 2 店所 8 名、80 時間超が 9 店所 27 名であった) 2023 年度 ・中部コース、西・南九州からの関西コースの改善 【取り組み】 ・モーダルシフト、荷役分離などの改善計画を実施
効果・実績について	・意識付けをすることにより、時間外 80 時間を超えることは皆無になった 2 月度時間外実績(最大値) 営乗 62 時間 複合 59 時間 路線 64 時間	・毎月第一土曜日に本社役員・執行役員・エリア統括・エリア補佐・店所長でコンプライアンス会議を開催し、主管部署運行部がリードし対象運行便 30 便中 29 便を積み合わせ等を変更し改善を図る	・1 月度実績 120 便を復路店連泊として土曜日空車運行と、日曜日出発を削減 また、低積載見直しによる減便 38 便も含めて、合計 158 便削減を行なう ・効果について 1 便あたり、13 時間の削減に繋がり、2,054 時間の拘束時間を短縮	・2023 年 4 月より変更予定 ・AM、PM の 2 回集荷体制を AM のみに変更 ・休憩時間取得のため、配達を PM に変更 ・1 ケース単価 130 円 UP	・ドライブレコーダーの映像を随時取得出来、また、長距離運行時の拘束時間、休憩時間の管理等、スピーディーに把握、対応が出来るようになり、休憩取得場所や、運行時間を指導出来るようになった	・3 月 6 日より運用開始 荷卸し時間については、鳥取支店で通常 2 時間程度掛っていたが、カゴテナー 6 台を利用して 1 時間程度短縮の効果	・人員不足と拘束時間に対応できる見込みである	・100 時間超過者ゼロは 2 か月連続で達成。但し 80 時間超過者は 6 名発生しており、「80 時間以内」の指導を継続する